

2017 年度

里親支援トレーニングプログラム実施報告書

うえだみなみ乳児院

【里親支援トレーニングプログラムの整備】

キアセットコンサルティング

○4月13日・14日職員全体受講（上鹿渡）

研修日程：4月13日・14日

研修会場：うえだみなみ乳児院

研修名：フォスタリングソーシャルワーク

講師：NPO 法人キアセットディレクター渡邊守

受講者：うえだみなみ乳児院（丸山充院長、竹内芳美家庭支援専門相談員、上鹿渡菜穂子里親支援専門相談員、大川裕里恵リクルーター）、軽井沢学園（金子悠一郎里親支援専門相談員）、上鹿渡和宏長野大学教授

研修内容：フォスタリングソーシャルワークの基本となる考え方の理解として主に以下の点について学んだ。

- ・家庭養護から子どもが得る利益
- ・「養育里親」、「養育里親制度」について考える
- ・なぜチームワークが必要か
- ・チームワークを構築するために
- ・チームのマネージメントについて（ビジョンの共有、年間計画作成・目標達成の戦略、マネージメントを担う者の役割）ーグループワークによる、うえだみなみ乳児院のビジョンの作成も行った。



○4月18日リクルーター受講(大川)

場所：うえだみなみ乳児院

講師：NPO 法人キアセット 里親リクルーター原園

研修名：「リクルートメントコンサルティング」

受講者：大川

内容・リクルートの役割

- 子育ての拠点となる、養育里親家庭を重点的に増やす取組をする
- ・知ってもらおうと問い合わせをもらうの違い
養育里親という制度がある事を知っていただく。知ってもらっただけで終わらせるのではなく、問い合わせをもらえるようにする。
 - ・生き方として養育里親を考えてもらう
 - ・リクルートの進め方
関係する自治体への挨拶、リクルート先についてのアイデア出し、ポスターチラシなどの必要なツール作り
 - ・問い合わせ後の流れ
ブックレットの送付→一週間後に電話連絡をし、ガイダンス希望の確認
→ガイダンス実施→ガイダンスに伺った時の印象などをSWに報告→興味はあるが今は出来ないと言われた方にはシンポジウムやイベントの案内、暑中見舞い・クリスマスカードなどを送る
 - ・問い合わせ状況
毎月イギリス本社へ問い合わせ件数を報告している。イベントやシンポジウムを行った月は問い合わせ件数が伸びる。

○4月18日ソーシャルワーカー受講（竹内）

場所：うえだみなみ乳児院

講師：NPO 法人キアアセット SW 吉川

研修名：「スーパーバイジングソーシャルワーク」

受講者：上鹿渡教授、金子4S、丸山院長、上鹿渡4S、竹内FSW

内容・リクルーターとの連携について

- ・インテイクとNFAについて
- ・面接報告書を持ってケースカンファレンスに臨む
- ・実習評価・・・施設実習の終了後に振り返りをする
- ・うえだみなみ乳児院としての強み・・・独自のトレーニングを考えて行く
- ・調査面接について
- ・チームの在り方について



○4月28日リクルーター受講（大川）

研修場所：東大阪市街中、豊中市情報サロン

研修名：リクルートメントコンサルティング

講師：里親リクルーター原園

受講者：大川

研修内容：東大阪の街中・商店街でチラシ配りの広報活動

豊中市情報サロンにてはぐくみホーム相談会に同行、ティッシュ配り

- ・スーパーマーケット、美容室、呉服店、クリーニング店、喫茶店、個人クリニック等へ飛び込みで里親募集チラシを置いてもらえないか聞き、入っていく
- ・チラシやポスターを置かせてもらえたお店の方には、広報活動に協力頂いたお店として、フェイスブックに載せて良いか許可を取り、写真撮影をする。
- ・チラシを置いてもらえなかったお店の方には、「また読んでみて下さい」「お知り合いで興味のある方いましたらお渡し下さい」と言ってチラシを置いていく
- ・広報活動中に里親に興味を持った方がいたら、その場で住所氏名等を記入するアンケート用紙を書いてもらい、後日ブックレットを送付する。
- ・市役所や大きな病院等で広報活動をするには、事前に電話でのアポイントが必要である。商店街や駅周辺施設には飛び込みで広報活動をしに行く。
- ・相談会用にチラシを作成し配布をしている。
- ・ブックレット送付後ガイダンスを実施していない方に声を掛け、相談会に来ていただくよう声を掛けている

○5月11日ソーシャルワーカー受講（上鹿渡）

研修日程：5月11日

研修会場：うえだみなみ乳児院

研修名：キアセットのアセスメントとトレーニングについて

講師：NPO法人キアセット SV ソーシャルワーカー 吉川昭代

受講者：うえだみなみ乳児院（竹内芳美家庭支援専門相談員、上鹿渡菜穂子里親支援専門相談員）、軽井沢学園（金子悠一郎里親支援専門相談員）、上鹿渡和宏長野大学教授

研修内容：キアセットが大阪府の里親登録前研修を受託し、使用しているテキスト『Journey to Foster（養育への旅）』のモジュール1－6の内容について、各モジュールに沿った内容についての具体的な説明またどのようにアセスメントを行うかについて学んだ。

○5月14日ソーシャルワーカー受講（竹内）

研修場所：大阪府社会福祉会館

研修名：大阪麩里親登録前研修「Journey to Foster2,3」

講師：SW 吉川、泊亜、 トレーナー藤田

受講者：竹内、金子

研修内容：・子どもの保健医療について

- ・協働の必要性・強みと社会資源・ネットワーク・社会的養護を理解する
- ・子どもの発達について

今後、自分たちがソーシャルワーカーとして研修を実施するにあたり、実際の研修現場で、進め方や参加者とのやり取り、内容について学ばせていただいた。

○6月3日ソーシャルワーカー受講（上鹿渡）

研修日程：6月3日

研修会場：大阪府社会福祉会館

研修名：大阪府里親登録前研修「Journey to Foster 4、5、6」への参加

講師：NPO 法人キアセット SV ソーシャルワーカー 吉川昭代

ソーシャルワーカー 泊亜矢子

トレーナー/ソーシャルワーカー 藤田智子

受講者：うえだみなみ乳児院（竹内芳美家庭支援専門相談員、上鹿渡菜穂子里親支援専門相談員）、軽井沢学園（金子悠一郎里親支援専門相談員）

研修内容：NPO 法人キアセットが大阪府から受託している里親登録前研修（3回目/全3回）を受講した。『Journey to Foster』のモジュール4、5、6を使用して、実際にどのように研修を行っていくのかを学んだ。

○6月29日リクルーター受講（大川）

研修場所：上田市海野町商店街

研修名：リクルートメントコンサルティング

講師：里親リクルーター原園

受講者：大川

研修内容：上田市海野町商店街でリクルート活動実践を見てもらう

- ・里親募集チラシを置かせてもらえないか聞き、お店に飛び込みで入っていく
- ・チラシを置かせていただいたお店には、許可をいただき写真を撮らせてもらう
- ・午前午後合わせて26店舗に入り、だいたいのお店でチラシを置かせていただいた
- ・チラシを置かせてもらうだけでなく、掲示出来る場所を見つけたら、貼らせてもらえるようお願いをする
- ・お店の方の反応は入ってみないと分からないので、「このお店は無理そう」と最初に決めてしまうのではなく、何でもまずお店に入ってみる
- ・その場で興味を持つ方はいらっしやらなかった



○11月20日ソーシャルワーカー受講（竹内）

研修場所：うえだみなみ乳児院

研修名：Journey to Foster 1

講師：SW 吉川

受講者：上鹿渡、竹内、金子

○Journey to Foster についての説明

○モジュール1 里親の役割について学ぶ

- ・里親のスキルや知識
- ・里親としてどのようなサポートを受けられるかについて
- ・守秘義務について
- ・里親として期待されることを理解する。

○実際に活動が始まってからの大事なことについて

- ・初回訪問について それ以降の家庭訪問について
- ・年間計画による見通し
- ・候補者の強みを引き出す
- ・保育園への理解の求め方
- ・緊急一時保護の事前準備について（ストックしておくもの）

○初回訪問について

リクルーターとソーシャルワーカー2名で訪問

○家庭訪問について

聞き取りはソーシャルワーカーとアセッサー2名で訪問。アセッサーはアセスメント業務を兼ねる。聞き取りもアセッサーが一人で聞き取る。（ソーシャルワーカーは途中で退席） *繊細な部分も聞いていくため、一人で聞く方がよい

○子どもの保育園面接にも加わることがある。養育里親であることを保育園に伝え理解を得ることも大切。

○年間計画を立て、見通しをたてる。

○候補者の方の強みをみいだしていく。

○委託後は10日に1階の家庭訪問をしている。・・・子どもの実際の状況が見えてくる。根拠ある信頼につながる。しかし、メール等のやり取りは良くない節度ある信頼関係を構築していく。名前は、フルネームで呼ぶ方がよい。

委託後、いつ何時、何かあったらすぐ対応できるようにする。里親は、しんどくなるとぶつけてくることがある。

○大阪は緊急一時保護が多く、そのためにも、事前の準備が必要。

ストックするもの・・・ ベビーベッド・チャイルドシート等（レンタル）

【里親支援トレーニングプログラムの実施】

リクルーター（大川）

○リクルート活動取り組み

- ・ 6月22日 里親リクルート活動開始
- ・ 6月30日 法人職員及び事業所設置分チラシ配布（約 2000 枚）
- ・ 7月16日 上田市各自治会にチラシ回覧（約 8000 枚）
- ・ 8月 3日 長野大学チラシ配布（300 枚）
- ・ 8月 4日 市内チラシポスティング（6000 枚）
- ・ 9月27日 東御市へ事業概要説明・挨拶
- ・ 11月16日 坂城町へ事業概要説明・挨拶
- ・ 12月11日 青木村へ事業概要説明・挨拶
- ・ 12月12日 長和町へ事業概要説明・挨拶
- ・ 12月25日 佐久市へ事業概要説明・挨拶
- ・ 12月28日 小諸市へ事業概要説明・挨拶

○リクルート活動問い合わせ件数

	6月	7月	8月	9月	10月
世帯数	1	10	11	10	4
	11月	12月	1月	2月	3月
世帯数	8	2	1	7	6

合計60世帯の問い合わせがあり、特徴として30～40代の女性からの問い合わせが多い



ソーシャルワーカー

- ・ 2月24日 キアセットライセンス研修 JTF（Journey to Foster）実施（上鹿渡）

研修日時：2月24日10:00～16:00

研修会場：うえだみなみ乳児院

研修名：『Journey to Foster』のモジュール1・2（1回目/全3回）

トレーナー：うえだみなみ乳児院（竹内芳美家庭支援専門相談員、上鹿渡菜穂子里親支援専門相談員）、軽井沢学園（金子悠一郎里親支援専門相談員）

参加者：8名（フォスターホーム登録希望者7名、他家族1名）

研修内容：『Journey to Foster』のモジュール1・2を使用し、「里親の役割について」と「協働」について研修を行った。モジュール1では里親の役割について考え、自分がどのようなスキル、知識、経験をもっていて、どのようによい里親になることに繋がるかについて考えを深めた。モジュール2ではチームで協働することがどのようにして委託された子どもや若者のサポートとなるのか。また家族の大切さについても考えを深めた。個人のワークやグループワークを通じて、養育里親になるということを具体的に考える研修を行った。

・3月18日 キアアセットライセンス研修 JTF（Journey to Foster）実施（竹内）

研修場所：うえだみなみ乳児院

研修名：Journey to Foster モジュール3・4

トレーナー：竹内、上鹿渡、金子

参加者：8名（登録希望者7名、他家族1名）

モジュール3・4のテキストを使い研修を実施する

モジュール3：テーマ「子どもと若者を理解する」

- 1、子どもの発達について
- 2、喪失感と別れが傷つきやすい子どもの発達に与える影響を考える
- 3、アタッチメントとそれが養育に与える影響を理解する
- 4、里親家庭で暮らす子どもや若者の世界を深く理解する
- 5、行動は過去の経験を反映しているという認識について

<重要ポイント>

*人がとる行動には、必ず理由がある。子どもが取る行動の理由がわかれば手がかりがつかめる。子どもが難しい行動をとったときはチームで里親を支えていく。

モジュール4：テーマ「回復力を付け、良い結果を導く」

- 1、自分自身と他人を理解する
- 2、子どもの経験や世界観を理解し、偏見や差別が彼らに与える影響についてより深く考える
- 3、回復力
- 4、健全な自尊心を持ちよい人間関係を築くことが重要であることを理解する

<重要ポイント>

*里親家庭で暮らす子ども達は健全な自尊心を築くためサポートが必要であり、里親は、子どもと若者の代弁者として行動する。

*里親として多様性への理解を深め、自分と違う人や物を受け入れ共生していく事が大切である。

・3月31日 キアセットライセンス研修 (Journey to Foster) 実施 (竹内)

研修場所：うえだみなみ乳児院

研修名：Journey to Foster モジュール5・6

トレーナー：竹内・上鹿渡・金子

参加者：3名

モジュール5・6ノテキストを使い研修を実施する。

モジュール5：テーマ「安全な養育」

- 1、家庭内の全員ができる限り安全でいられる環境をつくるためにどうしたらいいか理解する
- 2、子どもがしうる訴えのリスクとそのリスクを減らす方法について理解する。
- 3、虐待が子どもと若者の行動に与える影響を理解していく

<重要ポイント>

*家族全体で養育をし、安全が守られるように、一緒に生活をする事でどのようなことが起こりうるのかについて考える必要がある。

モジュール6：テーマ「新たな出発・前進する」

- 1、私のあなたへの思い
- 2、様々な変化を理解する
- 3、自立に向けて
- 4、あなたにとっての新しい出発

<重要ポイント>

*若者は自立するために多くのサポートを継続的に必要とします。自立するための計画は若者のニーズにあったペースで進めていかなければならない。里親は、若者が里親家庭を離れても、彼らの人生において引き続き重要な役割を果たしていく。

